

2014(平成26)年度事業報告書

社会福祉法人山鳩会 幼児室ポッポ

1. 理念・方針

(1) 法人理念

① 障がいがある人に・・・

自分の持っている力を発揮しながら、普通の生活を営み、自らが社会に価値のあるものである事に気づき、自己実現していけるよう支援する。

② 障がいがある人の家族に・・・

障がいがある人への思いを受け止め、それを実現していく。

③ 援助者には・・・

障がいがある人と共に歩みつつ、自己実現を図るために必要なサービスを提供し、常に向上的である人材に育てる。

④ 地域の方に・・・

共に生きていく環境を実現するために、お互いにメリットのある関わりを築いていく。

(2) 中期目標（平成26年度～平成28年度）

大人との信頼関係を築き、友だちへの興味を育てる。家族の心の支えとなる。

(3) 基本方針

① 人格の基盤となる「人との基本的信頼感」を築くため、子どもたち一人ひとりをしっかりと受け止め、支えていく。

・詳細な保育の記録による保育者自身の振り返り・スーパーバイザーを招いてのケース会議・アセスメント会議や職員会議により、子どもたち一人ひとりを受け止め、支えていった。

② 子どもたちがのびのびと自分らしくふるまえるよう、職員の在り方や環境整備を考えて保育にあたる。一人ひとりに即した遊びを見つけ、遊びを通して自己表現できるよう支援する。

・職員の退職により年度の途中で担当者が変わったが、新しい担当者が受けとめ支えていくことにより遊びを通して自己表現できるよう支援を行った。

③ 感性豊かに心身の発達を促すことのできるよう、自然からのエネルギーをたくさん体感できる保育内容を行う。

・1学期と2学期は全生園、3学期は八国山中心に園外保育を行った。自然の中で子どもたちの表情は生き生きし、遊びに集中した。2学期後半からは他の子と関わる姿が多く見られ、成長を感じる事が多かった。

④ 身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる支援を行う。

・担当者との関係がついてから、身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる支援を行った。

⑤ 社会の変化に伴い、孤立を深める母親や家庭の多様なニーズを敏感にとらえ、各家庭にそった支援を行う。

・個人面談・連絡ノートや送迎時の会話により、各家庭にそった支援を行った。

⑥ 行事を通して子どもたちの発達を促すと同時に、母親に対しても子育てを知る機会となる場を提供する。

・母子通園・親子遠足・親子焼きそば会・運動会・保護者会・個人面談等で、母親が担当者と話をしたり子どもと担当者との関わりや表情を見てもらった。

2. 施設概要

- (1)施設種別 指定障害児通所支援事業（児童発達支援事業）
(2)利用定員 10名（平成26年度利用者数14名）
(3)開園年月 昭和61年4月1日（開所指定年月日 平成25年4月1日）
(4)施設の規模 敷地面積 685.07㎡
延床面積 36.85㎡
建物構造 鉄筋コンクリート地上2階建て(1階の一部)
賃貸区分 (土地)市所有 (建物)所有

3. 職員構成

(1)雇用契約あり

職 種	配置人数
管理者	1名
サービス管理責任者	1名(兼務)
支援員 (常勤職員)	0名
保育士 (常勤職員)	2名
調理員・栄養士 (常勤職員)	0名
事務員 (常勤職員)	0名
指導員 (非常勤)	5名
保育士 (非常勤)	3名
調理員 (非常勤)	0名(兼務)
事務員 (非常勤)	0名
看護師 (非常勤)	0名
理学療法士 (非常勤)	0名
作業療法士 (非常勤)	0名
合 計	11名

(2)嘱託

小児神経科医師 (2回/年)	1名
看護師 (0回/年)	0名
理学療法士 (0回/年)	0名
作業療法士 (0回/年)	0名
リラクゼーション (0回/月)	0名
ケーススタディー講師 (6回/年)	1名
リトミック講師 (6回/年)	1名
合 計	3名

4. 利用者状況

(1) 障害程度

	1度	2度(A)	3度(B)	4度(C)	未取得	合計
愛の手帳	0名	2名	3名	3名	6名	14名
身障手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名
精神保健手帳	0名	0名	0名	0名	0名	0名

(2) 年齢構成 (平均年齢 3.5歳児)

	新入園児		継続児		計
	男	女	男	女	
1歳児	0	0	0	0	0
2歳児	1	0	0	0	1
3歳児	5	1	1	0	7
4歳児	0	0	3	1	4
5歳児	0	0	1	1	2
計	6	1	5	2	14

(3) 担当福祉事務所

東村山市				合計
14名				14名

(4) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
延べ日数	210	200	210	210	180	190	210	180	190	190	190	190	2,350
延べ人数	159	172	176	181	149	171	189	164	176	172	168	181	2,058
出席率(%)	75.7	86.0	83.8	86.1	82.7	90.0	90.0	91.1	92.6	90.5	88.4	95.2	87.5

5. 日課

(1) 月～金曜日

時 間	内 容
8:50～	送迎車出発
9:50～10:30	送迎車到着・自由遊び
10:30～12:20	集まり・園外保育
12:20～13:30	手洗い・昼食・自由遊び
13:30～14:00	片付け・おやつ・紙芝居など
14:00～	送迎車出発
～15:20	送迎車帰着

6. 重点目標

(1)一人ひとりの障がいや心身の特性に応じた支援を行う。

- ① 体制が変わってもこれまで同様基本方針は変えないで、一人ひとりを大切にする支援を行う。
 - ・毎日の細かな振り返りをし、柔軟に新たな対応策を考えて、職員間で共有する。
 - ・担当の保育者は、毎日自分の関わり方を振り返るために記録を書いた。
 - ・常にリスク回避を想定して保育を考え、職員間で共有した。
 - ・週1～2回の会議で子どもの様子を話し合い、職員間で共有した。
- ② 職員全体の支援の質を上げる。発達や障がい特徴をとらえるために日々勉強し、スーパーバイザーの先生に日常保育における子どもの様子や支援の在り方を見てもらい、アドバイスを受ける。
 - ・スーパーバイザーの先生に年6回保育を見学してもらい、ケース会議を開いて研修を行った。
 - 10月27日、日本乳幼児精神保健学会を設立された小児科医の澤田敬先生が見学に来られ、スーパーバイザーの先生・市の子育て支援課の保健師を囲んで研修会を行った。
- ③ 他機関とも密に連携をとり、情報を得て日々の支援に生かす。
 - ・ケア担の交流実習や施設見学において情報交換をした。

(2)市内の保育園の受け入れ体制の変化にともなうポッポの新たな役割への対応を行う。

- ① 働く母親への支援を行い、同時に母子の時間の大切さも伝える。
 - ・交流実習において一時保育の保育士と話す機会を持った。
 - ・連絡ノート・個人面談・保護者会で繰り返し伝えた。
- ② 子育てが困難な母親への支援を行う。
 - ・個人面談・電話・日々の送迎時にできるだけ話を聞くようにした。
 - ・保育日数をできるだけ増やした。
- ③ 一方で療育の視点からのアプローチを行う。
 - ・研修会に参加した。又、研修報告をして保育に生かした。
 - ・嘱託医やスーパーバイザーの先生の助言を受けながら保育を行った。

(4)年間行事

*親の会との合同行事

4月	保育開始(1) 母子通園(1～10) 新入園児保護者会(10) 継続児保護者会(16) 誕生日会(30)
5月	親子遠足(14)
6月	小児神経科医師の相談(6) 保護者会(26) 親子焼きそば会(26)
7月	親子リトミック(10) 個人面談&個別指導(16～25) 前期夏期保育開始(28)
8月	夏休み(13～17) リトミック(22) 誕生日会(28) 夏期保育終了(29)

9月	誕生日会(5) リトミック(26)	*バザー(6) 遠足(30)	保護者会(16・17)	進路面談(19・22)
10月	遠足(1)	進路面談(7・9)	保護者会・卒園児の保護者を囲んで(21・22)	
11月	*運動会(3) リトミック(13)			
12月	個人面談&個別指導(2~12)	市バス親子遠足(3)	保護者リース作り(8・9)	入園説明会(16) リトミック(17) 誕生日会(18・26) 家庭訪問(22)
	小遠足(25・26)	冬休み(27~1/4)		
1月	保育開始(5)	保護者会(8・9)	誕生日会(9・26)	家庭訪問(14)
	ホットケーキ作り(15・16・20・21)	小遠足(19)	豆まき(29・30)	
2月	お別れ遠足(4・27) 誕生日会(10) リトミック(12)			
	小児神経科医師の相談(26)			
3月	個人面談&個別指導(6~17) 家庭訪問(10) 保護者会(18・20)			
	春休み(27~31)			

7. 防災訓練

災害時の利用者の安全を図るため、防災計画に基づき、月1回の防災訓練を行う。

- ・1回目・2回目は職員のみで行い、子どもがポッポの生活に慣れた7月から毎月1回行った。

・・・4/30・6/3・7/15・8/26・9/26・10/31・11/19・12/2・1/29・2/9・3/12

8. 施設外の方との関係

- ・東大和療育センター小児神経科の Dr.(嘱託医) 診察・・・6月6日・2月26日

- ・東村山市子育て支援課(情報交換会)・・・11月7日

- ・東村山市幼児相談室(情報交換会・ケース会議・見学者の紹介)

情報交換会・・・4月17日

- ・東村山市心身障害児ケア担当者連絡会議(情報交換会・勉強会・交流実習・施設見学)

- ・交流実習

あゆみの家・市内保育園・保育ママからポッポへ・・・10/9・11/12・11/17・11/18・

11/21・11/25・11/28

ポッポからあゆみの家(都丸)・つぼみ保育園(常盤)・八国山保育園(柚山)へ・・・11月4日

- ・施設見学

ウイズアイ(柚山)・・・10月16日

東京小児療育病院(常盤)・・・10月23日

- ・特別支援学級との連携・・・3月18日

- ・東村山手をつなぐ親の会(バザー・運動会)・・・9月6日・11月3日

- ・地域との交流

青葉・秋津子育てまつり・・・9月28日

山鳩会ホームページ・フェイスブックの開設

9. 実習生の受け入れ

対 象	実習内容	期 間	人 数
あゆみの家・八国山保育園・ ほんちょう保育園・田中保育ママ	交流実習	7日	7名
中学生(第四中学校2年生)	体験学習	10/23・24	1名

10. 親の会との連携

- ①バザー・運動会に参加した。
②親の会総会資料及び親の会便りを配布して活動内容を知ってもらい、在園中の入会について説明した。

11. 職員研修

- (1)視野を広め、子どもや社会への理解を深める。
(2)経営の健全化や運営の適正化の推進、サービス内容の質の向上を図る。

研修名	実施日	主催	場所	参加者
子どものことば ～ことばの発達と障害～	5/24	新日本医師協会東京支部	全労連会館2階ホール	
育てにくい子にはわけがある	7/26	新日本医師協会東京支部	全労連会館2階ホール	
第6回あまえ研究会 ・心の響き合いとあまえ ・日本の子育て文化の足取り ・事例検討	10/25	あまえ同好会	東村山市サンパルネ 2階コンベンションホール	
第6回あまえ研究会 ・親と子の早期のコミュニケーション ・シンポジウム～子どもの傍らに いる人に期待すること～	10/26	あまえ同好会	東村山市サンパルネ 2階コンベンションホール	
澤田敬 Dr.を困らでの研修会	10/27		ポッポ	
発達障害児である前に、 ひとりの子ども・親子 として理解する	11/8	フォーウィンズ東村山	東村山市サンパルネ 2階コンベンションホール	
・東京都の自立支援協議会につ いて ・障害者福祉の最新動向と障害者 福祉関係法の今後について	2/14	東村山市 障害者自立支援協議会	東村山市民センター 2階第1～3会議室	
報酬改定等説明会	3/30	東京都福祉保健局	東京都社会福祉医療研 修センター1階講堂	

12. 会議

職員会議	週1～2回 水曜日又は金曜日
評価会議	各学期末に5～6日
ケース会議	幼児相談室・スーパーバイザーとのケース会議 年7回

研修報告会	職員会議にて
ケア担当者連絡会議	子ども育成課・幼児相談室・市内保育園・あゆみの家・ポッポによるケース会議や勉強会 年10回 ポッポ・・・方針・ケースなど発表(1月13日)
子ども育成課保育係との打ち合わせ	障害児わく保育園入園にむけて情報交換会 (11月7日)
執行会議	月1回
部会	研修部会・・・人権PT 月1回 リスクPT 月1回 広報部会・・・8回

13. 苦情解決・個人情報保護・権利擁護・セクシャルハラスメント防止

①子どもの権利を守る。

②苦情解決については、第三者委員を設置し対応に当たる。

苦情解決

	氏名
責任者	
担当者	
第三者委員	

セクシャルハラスメント

	氏名
責任者	
担当者(男性)	
担当者(女性)	

・苦情解決・・・0件

14. 人事管理

・目標管理

初回面接・・・4/8

中間面接・・・10/2

期末面接・・・3/20

・振り返りシート

期末面接・・・3/20